

基本方針 1 市民活動に関する情報収集・提供

| | | | |
|--|---------------|-------|---|
| 実施施策 1 | 紙媒体による情報提供の充実 | 委員会評価 | 4 |
| 委員会の意見 | | | |
| <p>《進展したこと》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 企業発行の情報紙の活用については、一定の成果が見られる。 ・ 小学校への出前講座も良い学ぶ機会になっている。中学校への働きかけも同時に行い、町内会活動への参画など提案できると良い。 ・ 企業などの情報誌への市民活動情報の掲載促進が進展した。 ・ 市民活動センターのホームページ等で着実に情報掲載できている。 ・ 小学生が、コロナ禍でも授業の中で町内会活動の取り組みを学べたことは評価できる。 ・ 東日新聞への掲載が倍増している。 ・ 企業紙や民間フリーペーパーへの市民活動情報の掲載が前年より多くできている。 ・ 企業などが発行する情報誌への市民活動情報の掲載促進は、昨年度に比べ新聞報道等への情報発信が増加し、活発に行われた。 ・ 小学生向け町内会活動啓発冊子の作成については、町内会の魅力を提示し、小学生のころから町内会に親しみやすい環境づくりを提供できている。 ・ 市民活動に関する情報を掲載する情報誌の件数や掲載回数が増えている。 ・ 企業紙、民間フリーペーパーの掲載場面や回数が増えたことは、大きな成果である。幅広く地域住民の方々に情報が届く手段を今後も柔軟にしていけるとよい。 ・ 新聞は一番多く市民の目に留まる紙媒体なので、今後も積極的に各新聞社に掲載依頼を行っていただきたい。 <p>《残された課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 紙媒体の掲載を今後載せてくれた企業情報紙の周知も何らかの形で示せば、現在わかっている企業にも啓発につながる。できる範囲でトライしても良いかと思う。 ・ 企業誌の情報掲載で東日新聞と東愛知新聞の掲載件数に大きな差があるので、同様に掲載できるよう、情報発信していただきたい。 ・ 紙面に目を向けてもらえるように工夫する。手に取りやすい環境が必要。 ・ インターネット等が発達してきているが、やはり紙媒体での提供を求める声も多い。今後も、親しみやすい書面づくりを期待したい。 ・ 企業の社内報などへの掲載を促すことができないか。 ・ H30 に作成されたボランティア適性診断シートの内容の見直しも、今後検討してみたい。 ・ 紙媒体自体は衰退傾向にあるので、年齢を問わず、市民がインターネットから情報取得できるように環境整備をすすめていただきたい。 | | | |

とよかわ市民協働推進計画実施施策評価書（案）

| | | | |
|-------|------------------|-------|---|
| 実施施策2 | インターネットなどの効果的な活用 | 委員会評価 | 4 |
|-------|------------------|-------|---|

委員会の意見

《進展したこと》

- 情報提供システムは有効に活用できている。
- 広報リポーターについても毎回各地に取材し、丁寧に発信していただけることに感謝したい。
- 市民ボランティア情報システムの情報発信件数が増えた。
- 広報リポーターの登録者も増え、原稿提供回数も増えた。
- あいち電子申請届出システムの活用件数が倍増している。
- 若者等への情報発信の強化を図るため Facebook や Twitter に掲載する件数が前年度より増加している。
- 「あいち電子申請届出システム」を活用した講座等の申込件数が前年度より増加した。若者が申し込みやすい環境になっている。
- 新型コロナウイルスの予防観点から開催が進められていなかったが、令和4年度は令和3年度に比べ、市民ボランティア情報提供の利用促進が進められた。今後もボランティア育成等にご尽力いただきたい。
- 講座の申込やボランティア申込等にもインターネットを利用して、時間や場所を選ばずに申し込みができることにより、親しみやすい活動ができる。今後もいろいろな場面で利用してほしい。
- インターネットを活用した情報発信・収集が効果的にできている。
- 講座申込みのインターネット申込みの講座件数・申込み件数が増えている。
- 情報発信数の増加が令和3年度から令和4年度で1.5倍～2倍増の実績は素晴らしい。情報過多の社会で、必要なところにスピード感をもって届くことは今後も大切である。
- 広報リポーターの情報発信も順調に伸びていて、リポーターの取り組みが充実されていることがうかがえる。
- 「市民ボランティア情報提供システム」からの情報発信件数が伸びている。より多くの情報が登録者のもとに届けられている。

《残された課題》

- 発信ボランティアについては、活用できるまで推進してほしい。
- 大学生との交流の機会の創出もあとできることの洗い出しの成果が出る。
- 市民ボランティア情報提供も着実に増えているが、まだまだ少ない。どれだけの方が活用していただけるか検討も必要。
- スマホで簡単に操作出来る環境にする。誰もが見られる環境にする。入り口が狭く、探せない。若い世代はティックトックや、インスタ。市からの案内がないとたどり着

とよかわ市民協働推進計画実施施策評価書（案）

けない。

- 今後、より若年層の参加を促進するためにもインターネットなどの効果的な活用や別の方法をより検討すべきである。
- デジタル化は急務の事業ではあると思うのが、費用もかかるので、効率的なインターネットを活用した情報提供を活用していただきたい。
- 興味関心のある情報をより丁寧に得たいと思う人が増えていると思う。広報リポーターなど、体験者や口コミの情報を充実するという取り組みを今後も検討していくとよいと感じた。
- メール配信以外にも、LINE や Instagram など様々なSNS活用して、若年層に向けた情報提供を図っていただきたい。

基本方針2 人材育成と協働意識の醸成

| | | | |
|--|-----------|-------|---|
| 実施施策1 | 担い手の育成と活用 | 委員会評価 | 4 |
| 委員会の意見 | | | |
| <p>《進展したこと》</p> <ul style="list-style-type: none"> • 若者ボランティア体験講座は、とても良い成果がみられる。コミュニティリーダー養成講座についても一定の成果を感じる。今後も担い手育成は推進してほしい。 • 若者ボランティア体験講座の受講者が定員を大きく上回り、今後に希望が持てる。 • 参加のきっかけとなる講座で、各担当課で進捗できていることは、その努力を評価し、今後に期待する。 • 手話奉仕員養成講座運営方法が改善された。 • コロナがら類になったことで交流の場が戻ってきた。交流を求める人たちが参加しやすくなった。 • 子育てサポーター養成講座では講座受講者に託児サービスを実施し参加者はとても加入しやすい環境で良い。 • 若年層ボランティア体験講座の実施が開催されたことは、今後の事業のためにも大きな成果である。やはり、体験してみても振り返りの機会が得られることは、次への一歩となる。 • コロナ禍ではあったが、徐々に社会全体がコロナ禍前の状態に戻りつつあり、講座開催についてもコロナ禍前のような開催ができている。 • コミュニティリーダー養成講座の受講者数の多さから、町内会運営に対して地域の問題が切実であることが分かる。地域の要望に即した取り組みとして一定の成果が出ていると思う。 • 若年層ボランティア体験講座の受講者数の多さからもこの取り組みが有効であったと思う。 • 昨年と比べ、より多くの課が市民活動へのきっかけづくりやリーダー養成講座の開催に取り組んでいる。 • まちづくりコーディネーター人材バンクを創設することで、有能な人材を社会資源のひとつとして市民活動に活用できる環境づくりが進められていると感じる。 <p>《残された課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> • 各種養成を担当課で講座開催をしていることは理解できるが、その後実際の行動までに至っていない面もあると思う。育成しても活用できなければ士気も下がるし、継続していかない。何か工夫があると良い。 • 若い人たちが各種講座を受講している。その体験を生かせるよう受け入れる場所・活動を提供し将来につなげることが大切。 | | | |

とよかわ市民協働推進計画実施施策評価書（案）

- No.12 宮路山どうだんあいご会のボランティア講座について、市広報やSNSだけに頼るだけでなく、実際の登山客などをターゲットにすべきであろう。
- ニーズに合わせた育成が必要となる。
- より担い手を育成する為にも、土日の開催や親子での参加、託児の実施など、参加しやすい環境をより整備すべきだと思う。
- 参加のきっかけとなる講座の充実では、年1回の開催ではなかなか伝わらないことも多いし、参加する市民の機会喪失にも関わる大きな課題だと思う。
- 講座受講者が市民活動の担い手としてどのように活用（活躍）されているか。
- 若年層ボランティア体験講座では、今後体験事業数や種類を拡大していくことで、若者の視野を広げ、活動への意欲や意識を醸成する貴重な機会になっていくと思う。
- フォローアップ研修や人材バンクに加えて、活動の場づくりなど受講者をより実践に繋げる仕組みを増やしていただきたい。

とよかわ市民協働推進計画実施施策評価書（案）

| | | | |
|--|---------|-------|---|
| 実施施策2 | 協働意識の醸成 | 委員会評価 | 4 |
| 委員会の意見 | | | |
| <p>《進展したこと》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる場面で協働についての啓発をしていることが感じられる結果になっている。企業むけのボランティア出前講座も良かったと感じる。 ・企業向けボランティア出前講座が開催できたこと。 ・令和4年度から新たに市民の協働への関心を高めるため啓発冊子の配布「協働ガイド」を462部配布出来た事は良いと思う。 ・企業向けボランティア出前講座等、新型コロナウイルス予防の観点からなかなか実施できなかったことが、開催できるようになり、多くの企業からの協力が得られたことは多いので、今後も進めてほしい。 ・市民向け、職員向け、企業向けと研修講座をまんべんなく実施し、ひろく協働意識を醸成する取り組みが順調に実施できていると思った。 ・企業向けボランティア出前講座は昨年度とは異なる企業で開催することができており、より多くの企業に社会貢献活動を促そうとする姿勢が伺える。 <p>《残された課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推進委員については、講座で学んだことはわかるが、実際に提案できるまでに成長してほしい。先進地事例などわかりやすい講師の選定が必要かと感じる。 ・各課に市民協働推進員がいて、研修をしているので、行政から協働事業への働きかけが、どれだけできるか。 ・18の項目では、昨年と同じ研修のアドバスがあったようだが、どのように進めていく予定だろうか？ ・市・市民・企業が協働で行う意義を多くの人に知ってもらいたいと思う。 ・企業向けボランティア出前講座は、企業の参画意識を高めるためにも、認知度を上げる方法を検討するとよいと思う。 ・社会貢献活動を行おうとする企業と、その力を必要とする自治会や市民活動団体とのマッチング機能強化を進めていただきたい。 | | | |

基本方針3 市民活動団体の支援

| | | | |
|--|---------|-------|---|
| 実施施策1 | 活動拠点の充実 | 委員会評価 | 4 |
| 委員会の意見 | | | |
| <p>《進展したこと》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民活動団体応援事業所は新たな試みとして非常に良い。成果もあった。豊川市においては市民活動の拠点は推進されていると感じる。 ・ボランティア・市民活動団体応援事業所の企業登録、団体に周知したこと。 ・No.24 地区集会施設整備事業への補助金額が約3倍となった。 ・ボランティア・市民活動団体応援事業所として活動場所の提供等をもらえる企業について、前年度は調査対象企業が5件だったが、令和4年度に登録が14件あり良い。 ・ボランティア・市民活動センタープリオの利用者数はコロナの影響も薄れてきて利用者数が増えている。 ・ボランティア・市民活動団体応援事業所として、多くの企業に登録いただいた。今後も更なる周知を実施されたい。 ・市民活動団体の活動場所の提供企業を登録し、団体に周知することで、市民活動団体の活動拠点の確保支援を図ることができた。 ・市民活動応援事業所登録件数について、R3の調査対象企業は5件であったが、R4に14件の登録があり、大変心強いと感じた。 ・事業実施内容を見直したことで、空き店舗などをボランティアや市民活動団体に活動場所として情報提供できる仕組みが構築されていると感じる。 <p>《残された課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティの拠点はそれぞれ耐久年数がきていて整備も必要。使用する地域住民に参画していただきながら、今後も計画してほしい。 ・豊川市は空き店舗対策が拠点になる発想が少ないと感じる。発掘をしてほしいと感じる。 ・ボランティア・市民活動団体応援事業所を利用できるよう、周知の徹底利用の働きかけが必要。 ・企業として登録する事のメリットをアピールすれば、多くの賛同が得られると思う。 ・地区市民館設備事業の補助事業では、防災の観点も併せて市内施設の積極的な改修、新築などの補助をお願いしたい。 ・活動場所の提供については、身近で魅力的な場所が増えていくと活動も活発になると思った。 ・ボランティアや市民活動団体が企業から提供された施設や空き店舗を利用できるように情報提供に加えて、積極的にコーディネートも行っていただきたい。 | | | |

| | | | |
|-------|------------|-------|---|
| 実施施策2 | 財政的支援などの充実 | 委員会評価 | 4 |
|-------|------------|-------|---|

委員会の意見

《進展したこと》

- 補助金については、今年度も成果があったと思う。円滑かつ適正に支援が行われていると感じる。
- 結ネットの応援事業所について、賛同事業所29件ととても努力が感じられる成果となっている。実証実験であってもこのように事業所への理解を周知できることは素晴らしいと感じる。
- 各種補助金・助成金等が交付できたこと。
- 町内会電子回覧板「結ネット」応援事業所29件は評価できる。
- 市民協働推進事業への補助は令和4年度は4事業あった。今後も継続していくべき
- 新型コロナウイルス予防の観点から、なかなか事業ができない団体等もあったと思うが、財政的支援が大きな柱となると思う。
- 地区などで行なえる事業を財政的支援を行うことで、地域のまとまりができるなどの利点も大きいと思う。
- 町内会地域活動交付金の増額はとても有効だと思いました。諸物価高騰で、町内会運営でいろいろな面で苦労していると思われるので、微増でも町内会交付金を増やして欲しいと思う。
- 応援事業所の登録数が69→83と増加しているのは、充実の成果と感じる。活動の支援としてとても有効だと思う。
- 豊川応援寄附金として実施したクラウドファンディングは、120件、総額250万円を超える寄附があり、寄附による市民参加の推進ができていると感じる。

《残された課題》

- 老人クラブについて、会員不足など早急に対策が要る問題があり、財政支援以外の問題から検討していく必要がある。
- 市民協働補助金については、事業費をもっている団体が応募することが目立ち、仕組みが敷居高くしているように思えてならない。今後の仕組みを考える機会があれば変化させた方が良いと感じる。
- 豊川市民協働推進事業補助金が、予算額執行できていない。
- 町内会電子回覧板「結ネット」の本格運用が、どれだけできるか。町内会への理解啓発が大切。
- No.28 老人クラブへの補助金について、老人クラブがどんな活動をしているのか周知されていない。
- 老人クラブ等加入者減少について、増加するには毎年年齢に達した方に向けて、市からの案内が必要。
- 市民活動団体への財政的な補助は、市からの補助が大きな財源となっており、役割は

とよかわ市民協働推進計画実施施策評価書（案）

大きいと思う。今後も健全な運用を図られたい。

- 町内会への財政的支援事業の老人クラブへの補助金交付では、3年度と同じ改善点が上がっているので、是非とも5年度はすこしでも改善をお願いしたい。
- 結ネットの多くの方の活用を期待する。
- 公園・広場の管理委託などでは、町内会組織への財政支援だけでない方策も検討したほうがよいと感じる。（管理運営が行き詰まらないように人的支援策も考慮するなど）より多くの寄附を行いたくなるような、魅力ある事業の開発と、クラウドファンディングで寄附を受けた事業成果の周知方法を構築していただきたい。

| | | | |
|-------|---------|-------|---|
| 実施施策3 | 人的支援の充実 | 委員会評価 | 4 |
|-------|---------|-------|---|

委員会の意見

《進展したこと》

- 各種人的支援につながる講座は成果を感じることができる。
- 町内会アドバイザーについては、解決の検討をされ、今後につながることを期待する。
- コーディネーター養成講座・スキルアップ講座の開催で、市民活動団体のより活力のある活動が期待できる。
- No.36 人材育成講座 QUON チョコレートの挑戦の参加者が 200 人もいた。今後も話題の人を講師に招いて参加者を増やすべきである。
- スキルアップ講座の開催では「SDGs に対して何ができる？身近な活動に SDGs を取り入れよう」などご時世にあった講座が開催出来ていて良いと思う。
- 新型コロナウイルス予防の観点から開催がなかなか難しかった 3 年度から比べると、4 年度は講座の開催等の成果がとてもあったと思う。
- 今、ボランティアなどの活動にとっても関心が多い事項だと思うので、参加者も増えてきていると思う。各課で積極的な実績をあげられていることは喜ばしいことだと思う。
- アドバイザー派遣事業は、コーディネーターの活用とともに、地域の状況に応じたアドバイスをしてもらえる貴重な存在であると思われる。地域の良さを再認識できて、地域にとっても有効な取り組みだと思った。
- スキルアップ講座の内容が魅力的で、参加者の満足度も高いだろうと感じた。（コミュニケーション、伝え方などのテーマが役立つ内容だと思った。）
- 町内会アドバイザー派遣事業では、昨年度と違う町内会で実施されており、事前勉強会から地元協議まで複数回にわたり実施されており、派遣されたアドバイザーの丁寧な支援が伺える。

《残された課題》

- 人的支援の各課の洗い出しに忘れていないものはないかと感じる。市民協働からそのあたりの洗い出しの確認が必要と感じる。
- 町内会アドバイザー派遣事業で検討された「若い世代が参加する町内会活動」の解決方法が、次年度へ、また他の町内会に生かせるか。
- まずは、いろいろな人に市民活動を知ってもらうことが大切だと思うので、アドバイザーやスキルアップなどの情報提供が不可欠と思う。
- スキルアップ講座など、町内会リーダーが楽しく学べる機会を工夫したいと思う。
- アドバイザー派遣事業利用終了後も、新たな課題が発生しても町内会が自主的に対応できるように、継続的なフォローをしていただきたい。

基本方針4 市民協働推進の仕組みづくり

| | | | |
|---|------------|-------|---|
| 実施施策1 | 推進・連携体制の整備 | 委員会評価 | 4 |
| 委員会の意見 | | | |
| <p>《進展したこと》</p> <ul style="list-style-type: none"> • 提案制度について概ね推進できていると感じる。豊川市政施行80周年事業も多く入っていて、連携体制も確立できていると思う。公園緑地課の協働事業のような協働があらゆる場面でみられる豊川市であってほしいと感じる。 • 「防災ってお互いさま」の講座開催で、市民の防災意識の向上が図られた。 • 市制施行80周年記念事業をきっかけに、市との協働事業が増えた。 • まちづくりコーディネーター人材バンクが立ち上がった。 • No.42 赤塚山公園の塗装について、私自身もボランティアとした参加したが、豊川市、企業、市民が一体となって取り組み満足度も高かった。今後も三位一体となるボランティアを企画していただきたい。 • 市との協働事業数は年々増加している。今後も継続。 • 市民活動者の審議会などへの登用の促進では、各種団体等からももちろんのこと、広く市民からの公募もあり、市民がわかりやすい事業展開をされていると思う。 • 市制施行80周年事業も市民からの意見も積極的に採用され、親しみやすい80周年になっていると思う。 • 市民活動団体からの提案が多数実現したことは大きな成果だと思う。市民目線のまちづくりを今後も大事にしていけるとよいと思う。 • 赤塚山公園の遊具塗装やスクエアステージ裏の壁画作成について、企業からの提案を穂の国まちづくりネットワークが関わることで、より効果的な協働事業として実施することが出来ていると感じる。 <p>《残された課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> • 提案できる各課が増えるように協働への理解と促進を期待している。 • 多くの協働事業を多くの関係団体・市民に呼びかけ、しっかりと連携して、市制施行80周年の盛り上がりにつなげられるか。 • 前年度から始まった協働のまちづくりコーディネーター人材バンク。活用すれば今後の協働体制づくりに役立つと思われるので、実績を増やしてほしい。 • 市民活動は、継続が第一だと思うので、いろいろな団体、組織と連携を図り、市全体（いろいろな課でも）で取り組んでほしい。 • まちづくりコーディネーター人材バンクがより機能する方策を検討していけるとよいと思った。 • この成功事例をもとに、企業や市民活動団体に対して積極的に協働事業への協力や具体的な提案を実施していただきたい。 | | | |

とよかわ市民協働推進計画実施施策評価書（案）

| | | | |
|--|------------|-------|---|
| 実施施策2 | 協働事業の評価・公表 | 委員会評価 | 4 |
| 委員会の意見 | | | |
| <p>《進展したこと》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公表については毎年同様適切にできていると思う。評価について各種協働の成果がわかる情報提供を考えてみても良いかと思うが、現状維持でも良いとも感じる。 ・市が取り組む協働事業の公表ができた。 ・市が取り組む協働事業の公表を市ホームページで広く公表するなど広く情報共有出来ている。 ・協働事業の成果が、HPなどで公表され、わかりやすかった。 ・HPでの公表方法は、より多くの人に見てもらえる機会になるので妥当であると思う。 ・昨年度と比べて、ひとつの施策に対し、より多くの課がそれぞれの立場を活かした事業を立案・実施することが出来ていると感じる。 <p>《残された課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の推進計画に現状をどう活かせるのか検討しておくが良いと感じる。 ・市が取り組む協働事業を、市民がどれだけ理解しているのか。 ・協働事業は若い世代ではまだまだ周知出来ていないと思うので今後どのように広げていくか課題。 ・HPの掲載されている事業が、リニューアルされていることもあり、なかなか分かりづらかった。 ・協働事業の評価・公表を行っている市のホームページについては、引き続きデザインや検索方法等改良が必要だと感じる。 | | | |